

大豆「フクユタカ」における早播・摘芯処理による安定栽培法

農業研究部・水田農業グループ

1. 研究の背景

大豆作における播種適期(7月上中旬)は、梅雨時期と重なるため、適期内に播種することが困難な年がある。そこで、播種可能期間の拡大の方策として早播(6月上中旬)と摘芯処理の組み合わせによる栽培法を検討した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

6月上中旬の早播は、7月上中旬の適期播に比べ倒伏しやすいが、摘芯処理を組み合わせると倒伏が軽減され、安定的に収量を確保できる。

[早播のポイント]

早播栽培のため適期播よりも株間を広げる。

[摘芯処理方法]

摘芯は大豆の葉数 7 ~ 11 葉期(主茎長約 35cm)に行う。

摘芯位置は大豆主茎の生長点から 5cm 程度下で摘芯する。

乗用管理機に装着した大豆摘芯機を使用した場合、10a 当たりの作業時間は 10 分程度である。

	6月			7月			11月			注1)低標高地でのイメージ。 注2)中耕培土は生育期に2回実施する。
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
早播・摘芯	播種				摘芯			収穫		
適期播				播種					収穫	

早播・摘芯栽培と適期播栽培の作業スケジュールの違い



乗用管理機による摘芯と摘芯位置

[早播・摘芯処理による大豆の生育収量]

早播による生育は、摘芯しない場合、適期播に比べ主茎長が同程度~長くなるため、倒伏は中程度発生する。しかし、摘芯処理により倒伏が少程度に軽減する。

早播・摘芯処理による収量は、適期播と同程度~増収する。

早播・摘芯処理による大豆の生育収量

処理区	株間 cm	条間 cm	主茎長 cm	分枝数		倒伏程度 0-4	成熟期 月/日	稔実 莢数 個/m ²	百粒重 g	子実重 kg/10a
				1次 本/本	2次 本/本					
早播・摘芯	30	70	27	5.3	2.3	0.2	11/10	777	30.4	345 (124)
早播・摘芯なし	30	70	63	6.1	1.1	2.3	11/10	788	30.0	313 (112)
適期播	20	70	58	3.7	0.2	0.0	11/16	582	31.4	283 (100)

注1)値は2016年と2017年の2ヶ年平均値。注2)播種期:早播は6月10日、適期播は7月7~15日。

注3)倒伏程度は無(0)-少(1)-中(2)-多(3)-甚(4)の5段階で示す。

3. 期待される効果

大豆栽培の生産安定に寄与できる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 水田農業グループ 水田農業チーム

TEL : 0978-37-1160 住所 : 宇佐市大字北宇佐 65